教育・保育の中で、保育教諭の言葉がけが子どもたちの行動にどのような影響を与えるのか

－子どもが好きな遊びをしている場面での保育教諭の言葉がけ－

学籍番号　219212
氏　　名　田盛　智子
主指導教員　中橋　美穂
副指導教員　水野　治久

1．問題と目的

1.1 背景

本調査は、保育教諭における言葉がけに関する日々の振り返りが明日への豊かな保育に繋がることを目指したものである。保育の中で、保育教諭が日々子どもたちと接する際に掛ける言葉がけは、子どもの心情や次の行動に大きく影響すると考える。

田中（2018）は、「保育者の子どもに対する言葉やかかわりの一つひとつが、子どもの育ちや成長の基礎に大きな影響を与えていると保育者も自覚しなければならない」と述べる。実際に保育教諭たちは、保育実践において、子どものその時の行動や思いをしっかりと受け止め、理解できるような言葉がけを意識し行っているが、同時に、本当に子どもの心情を読み取り、次の主体的な活動や遊びを見通したうえで、言葉をかけているのだろうかと言葉がけの難しさを感じている。筆者も、子どもの心情を受け止めたうえで、言葉がけができていたのだろうかと自問自答することがある。

そこで、実際に日々の保育の中で、保育教諭自身の目で感じ取れる子どもの様子や保育環境における振り返りは行いやすいが、保育教諭自身が子どもに掛けている言葉がけを振り返ることや、自分自身の言葉がけから何かに気付くことは難しい。本研究の意義は、子どもが好きな遊びをしている場面で保育教諭の言葉がけにおいて、保育教諭自身がどのようなことに気付き、次の保育にどのように繋げているのかを明らかにすることである。

1.2 目的と方法

本調査の目的は、保育の中で子どもが好きな遊び(ごっこ遊び)をしている際に、保育教諭はどのような言葉がけを掛けているのか、またその言葉がけにおいて振り返りを行うことで、どのようなことに気付き次の保育に繋げているのかを明らかにすることである。3歳児クラスに在籍する子どもが、好きな遊びをする場面の動画撮影を行う。逐語化した文字を見て、3歳児担任保育教諭にインタビューを行う。そして1つ目の事例のインタビューで得られた回答からどのようなことに気付いているかをデータ収集する。2つ目の事例、3つ目の事例と同じように繰り返すことで、インタビューの回答にどのような変化が見られるのか、次の保育にどのように繋げているのかを考察する。

2. 結果

保育実践事例を文字化し、保育教諭にインタビューした結果、保育教諭が語った気付きは次のようなことである。「願い」「理想」「言葉がけにおける振り返り」「次の保育に向けての具体的な提案」「道具の扱いに関しての思い」「保育を行う際の心掛け」「子どもへの返答における自省」「複数人の子どもとの会話のやり取りの難しさ」「子どもの姿」

今回、3 つの遊び事例から比較検討を行った振り返りにおける気付きの違いを述べる。1 回目・2 回目の振り返りから、1 回目は保育教諭自身の言葉がけや思いに関する内容が多く読み取られていたことに対し、2 回目は子どもの言葉や子どもの遊びの様子、遊びの内容について話をしており、着目する観点が変わっている様子が伺える。このことは、自分自身に向けられていた振り返りの観点が子どもへと広がり、保育全体に目が向けられていることが分かる。また、2 回目・3 回目の振り返りから、2 回目は子どもの行為そのものに関することについて語っていたことに対し、3 回目は教諭 X の行為そのものに関することについて語っており、教諭 X は言葉がけに限らず、様々な保育の様子を振り返ることで、自身の介入の仕方や行為を改善しようと反省しているのではないかと考える。

3. 結論と今後の課題

3.1 振り返りから気付いた次の保育へつなげたい５つの視点

観察、調査の結果から明らかになった、気付きの 5 つの視点について述べていく。その視点とは、①子どもの会話が豊かになるような言葉がけを心掛ける、②子どもたち同士でのやり取りや会話が生まれることを援助するような言葉がけをする、③ものの扱い方や遊び方を丁寧に伝え、楽しさを知らせる、④遊びが面白くなる教材を整える、⑤保育教諭の遊びへの介入の仕方の 5 つである。振り返りを行うことで、自身の実践を客観的に捉えることができ,反省点が見えてくる。その反省を踏まえ、明日の保育をどのように行うのかを考えようとする。省察と改善を繰り返し、それを活かしていくことで、より良い保育へと繋がるのである。

3.2 今後の課題

本調査における課題としては主に 3 点考えられる。1 点目に、3 歳児の時期（学期）に応じて変わりゆく遊びに対して、保育教諭はどのような言葉がけを行うのかという比較的な視点では明らかにできていないことである。また、4,5 歳児においても本研究は分析対象外としており、4,5 歳児における遊びの育ちの過程から保育教諭の言葉がけについては明らかにできていない。2 点目に、幼児期の遊びの場面で、保育教諭から言葉を掛けられることで、遊びにどのような変化がもたらされるのかという視点での調査ができていない。3 点目に、保育実践後の振り返りは、今回の調査では、実践を行った保育教諭一人での振り返りを行うことで留まっている。保育教諭の言葉がけがより良いものになるためには、日々の振り返りを行うことが大切であることを踏まえ、今後は他者と一緒に振り返ることで、様々な視点からの気付きを得、明日への保育に繋げていくことである。